

令和3年5月31日

学校法人三幸学園
仙台こども専門学校
校長 梅田 一成 殿

学校関係者評価委員会
委員長 平山 乾悦

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 平山 乾悦 (NPO みやぎ・せんだい子どもの丘 理事長)
- ② 大沼 好則 (株式会社オーダー ぷりえ〜る保育園あらまき 施設長)
- ③ 加藤 恵理 (第3期卒業生 仙台こども保育園勤務)
- ④ 小山田 由衣 (第2期卒業生 社会福祉法人銀杏会 バンビの森保育園)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年5月24日(会場 仙台こども専門学校 603教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和2年度 学校法人 三幸学園 仙台こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 高清水 久実

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 平山 乾悦

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

I. 「社会に貢献する人材」を輩出することを前提とし「働くこと」、「保育者になること」を重点的に、業界とのギャップが少なくなるように伝え続けた。また卒業生支援策を実施した。対面での卒業生向け研修においてはコロナ禍の為、延期。オンラインで情報発信を行った。2021年度に改めて同窓生研修会を予定している。

〈就職率実績〉

2019年度：100%

2020年度：99%

II. 退学率低減、教務力向上のため、学年担当制(チーム担任制)を導入し、生徒からの相談を受けやすい環境づくり、教科教員との連携の強化を図った。(問題もあったが、結果としても良いものが生まれた。)

〈退学率実績〉→退学率目標 5.0%

2019年度退学率：6.9%(全国平均 8.1%)

2020年度退学率：4.1%(全国平均 5.7%)

②学校関係者評価委員会コメント

平山委員：自ら考え、行動する人材を育むことが求められる。言われたことには素早く反応し、きちんと対応するが、何のためにやるのかまでは考えられていない。そのためには繰り返し伝えることが必要。学生と接する際には何のためにやるのかという意識を持つことが必要である。退学率低減は大切だが、退学後に無資格でも働きたいという貴校学生だった職員がおり、辞めなければよかったと言っている。支える側が常に気にしなければならない。以前は強い決意を持っている学生が多かったが、育つ環境が違っているため、学校側の教育も丁寧に関わる必要がある。

大沼委員：子どもの伸びていく姿をどのように育てていくかは保育士の力量である。その際、成長段階を学生がどれだけ把握しているかが重要。若い保育者も色々な視点で子どもと関わるができるよう、現場の先輩保育者から学んでいって欲しい。

加藤委員：丁寧に後輩や新入社員に教えることは大切だが、昨年2名の新入職員と関わった際、わからないことを新入職員側からたくさん聞いてくれたため、自ら解決していくことができたようだった。わからないことは自分から聞きに行き、解決できる力が重要と感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

・理念や目標の設定、周知までは適切であるが、その浸透度合いについては伸びしろがある。

②今後の改善方策

・入学、進級後にも重ねて理念に触れ、どのような状態を目標とするのか具体的に考える機会を設ける。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：「子どもの躰」の語源は「～し続ける」という意味であり、何事も繰り返すことが大事である。短く強い、わかりやすい理念であることも重要。今年理念や今月の目標などをより具体的に掲げ、資料や教室の目に触れるところに表示をし続け、機会があるたびに、学校が望む生徒の姿を発信し続けることが必要。

大沼委員：「子供の最善の利益を大切に」という園の保育方針は幅が広く、何が最善かというのが漠然としているため、保育士指針の中に盛り込んで取り組んでいる。浸透しきれてはいないが、実際に体感して覚えていくことが必要である。

加藤委員：在学中の成功の法則の授業で貴校の教育理念を確認できるタイミングはあったが、学生時代は教育理念が染みついていなかったと思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・コロナ禍に伴い、学園独自の学習システム(SankoGate)を例年以上に活用した。お知らせやオンライン授業の課題実施、授業アンケートなどで活用し、生徒への伝達にかかる時間が削減された。生徒が自主的に習熟度アップに活用できると尚良い。
- ・生徒の出欠確認の正確性や業務効率を上げるため、新しいシステムで実施しているが、修正が多く教員の労力が軽減されるに至っていない。

②今後の改善方策

- ・今後予習復習を隙間時間で自主的にかつペーパーレスで実施するなど、さらに学習の質を上げるためにSankoGateを活用する。それにより教員の添削、採点時間の効率もそれによりアップすることが期待される。
- ・2021 年後期から完全に電子出欠確認システムを導入予定である。これにより出欠記録や成績入力の修正作業を軽減し業務効率アップを目指す。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：ICT化にはスピード感があるが、現在の世の中から見れば、保育業界のICT化は遅れている。システムが一本化されれば、子どもたちの管理に関するシステムについても学生中に学べるといいが、どのシステムが推奨されてくるかわからないため、様子見の状況ではないか。学校独自の SankoGate のシステムを磨き、不具合を調整していくことが必要。

大沼委員：保育士のシフトの問題で当園でのICT化は実施していない。現在は手書きの物が、ICT化で全てパソコンでの活字になった場合、文字の表現や気持ちが伝わるのかが課題。やはり保育士が直接記入した文書の方が活着ているように思う。

加藤委員：保護者の方への連絡をアプリで行っている。携帯を小まめに見ている方が多く、回答率が増えたり、期日が守られるようになったりした。日誌や連絡ノート以外はPCやタブレットで行うようになっている。

小山田委員：クラスだよりや園だより、給食の献立をHPにアップして見られるようにしている。また、HPには子どもの日頃の様子を写真で伝えている。お便りノートは現在も手書きでやり取りをしている。

平山委員：連絡帳をアルバムに貼り、宝物にしている方もおり、成長したときに振り返る場面が来た時に手書きの物があるといいのではないかと。

大沼委員：ICTによる効率化も求めつつ、手書きの良さも残していきたい。

加藤委員：保護者からの手書きのコメントに対しては保育者も手書きで返答できるのが良い。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題

- ・キャリア教育の充実。実習の時から就職を見据えた実践力、柔軟性、向上心を持つことができるようなカリキュラムの工夫や、教科間の連携が必要。
- ・新型コロナウイルスの影響により、実習期間短縮、演習への振替など、例年に比べ実践の機会が減少しているため、いかに授業内で学びを深められるかが課題。

②今後の改善方策

- ・教科間連携が図れるよう、定期的な教科会を実施(4月全体会議にて実施済、次回は6月を予定)する。
- ・卒業学年だけではなく、入学時から保育の仕事をより感じられるような授業内容の展開を行う。
- ・今後も実習機会が減少する可能性があるため、演習用のコンテンツを充実させ、かつ実習担当で内容を構築していく。
- ・全体会議等で外部講師による講話や研修を実施することで、教員の指導力向上を図る。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：学生のうちに現場で実習することは自分が身に付けたスキルを確認する上でも重要である。保育現場で働きたいと思うことや子どもたちと関わることも大事。学年担当や授業担当だけではなく、話す人を変えることで素直に聞き入れられることがあるため、現場で働いている卒業生の声を聴く機会や保育に対するモチベーションを上げるような外部講話の時間も大切だと思う。

大沼委員：学内の勉強だけでは学ぶことができない、理想と現場の違いを学ぶことが一番だと思う。また、現場で経験したことを学校で学び直すことの繰り返しが必要。

加藤委員：実習中は保育者にゆっくりと質問をする機会が不足することもある為、その場で気になったことを聞ける機会があると良い。知りたいことを詳しく知ることができると学びに繋がると思う。

小山田委員：子どもとの関わりをどうするべきか悩む学生がいるため、例題を基に考えたことを、実践していくことが必要だと思う。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・在校生に対して、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、ボランティアや就職活動等の学外活動に積極的に促すことが出来なかった。
- ・卒業生支援、早期離職防止などの対策を積極的に行うことが出来なかった。
- ・保育分野外へ就職希望の生徒への就職斡旋やフォローが出来なかった。

②今後の改善方策

- ・感染拡大が続いている中でも生徒が活動できる内容を検討し、実施を促していく。
- ・就職活動における面接対策等を姉妹校と連携して行い、さまざまな視点から生徒のサポートを実施する。
- ・卒業生支援として8月にフォローアップ研修を実施する。前年度にヒアリングしている卒業生が感じるギャップをもとに内容を構築する。
- ・保育分野外への就職を検討している生徒向けに、ガイダンスや説明会を実施しサポートの充実性を向上を図る。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：現場でも園の壁新聞のコメントに若者言葉が入っており、若い世代との言葉遣いの差を感じている。手書きで文章を書くこともある為、今後も文章を書く練習は必要だと思う。8月フォローアップ研修は、互いに認め合い、園に学びを持ち帰ることを考えるととても有効的な研修だと思う。退職理由の内、1位は休日や残業について、2位は人間関係、3位は給料や将来への不安とされる中、2位の人間関係は意識して変えられものである。自分と合う人だけではなく、クラス内に合わない人がいた場合にどうするか在学中から経験し、誰とでもうまくやっていく力をつけることが大事。

大沼委員：実習生や新卒の保育者の中には若者言葉で記入をしたり、話をしており、保護者からの印象が悪くなることもあるため、言い回しをアドバイスしている。様々な場面でのシミュレーションをし、臨機応変に対応することが必要。保護者の年齢と若い保育者とのギャップを埋めて、コミュニケーションを取っていくことが大切。また、給与は国としても見ていかなければならない改善点だと思う。

加藤委員：指導案や日誌は学んだが、児童票の書き方や心構えを教えて欲しかった。しかし、園によって児童票の書き方は異なるので、そういったことも踏まえて伝えていただけるとよい。また、小規模園の場合、朝の会等で入社してすぐに任されることもあるので、授業内で実践できる場があると良い。

小山田委員：朝の集まりや活動前に子どもの興味を惹き付ける引き出しが多いと良かった。いざ子どもを目の前にしたときに困っている実習生が多い。歌や手遊びなどの引き出しを増やすことも大事。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・コロナ禍の就職支援や、学校環境の充実。
- ・相談内容の多様化(精神的・学力・家庭環境等)に伴う、対応力が求められ、教員のケアも必要である。

②今後の改善方策

- ・生徒へのカウンセリングの促しはもちろんのこと、教員がカウンセラーと連携し適切な支援を模索する。
- ・チーム担任制を活かし、相談窓口を広げ連携して支援を実施する。
- ・「スタプロプラス」として、不登校や長期欠席の経験や、精神不安等のある生徒向けのガイダンスを実施する。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：途中退学者への支援体制を充実すると、保育に携わる若い世代の人数が増えるのではないかと思う。再入学支援金(日本学生支援機構)や関東でも再入学者への支援が進んでいる。コロナの状況渦で辞めざる負えない生徒がいた場合に、もう一度戻ってくることができる枠があると良い。

大沼委員：紙面で再入学のチャンスがあることを案内することで、きっかけになるのではないか。また、保護者は自分の生活の半分を子どもに費やす時代だからこそ、金銭面でのサポートが重要になると思う。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・コロナ禍における施設実習、教育実習など生徒の実習先確保(地域により)が難しい。
- ・コロナ禍による実習、インターンシップ、海外研修への警戒が強くなっている為、学びの場の確保が難しい。
〈2020年度実績〉
- ・教育実習4週間→3週間に短縮、県外実施の場合の2週間前待機 47 園、学内演習(施設実習のみ)28 名
- ・海外研修→中止(2021年度も中止が決定)

②今後の改善方策

- ・実習先確保の為の協力依頼の強化を行う。
- ・コロナ禍においても現場実習を実施できるよう各園への協力依頼を行っていく。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

大沼委員：一昨年のボランティア学生は、積極的に取り組んでいた。また、ボランティアでは、学生の人間性もわかるため、就職に繋がることもあり、園としてもボランティアにぜひ来てほしいと思っている。

加藤委員：自主的にボランティアを行うことが大切。今年度はボランティアの受入れを再開しようと考えている。ボランティア学生には掃除や壁面の手伝いをお願いしており、保育の仕事について学ぶことができると前向きな意見が学生から挙がっている。園側としても手伝いがあり助かっている。

小山田委員：検温・消毒・マスクを徹底し、実習生を受け入れているが、コロナ渦だからと実習での学びの機会を奪わず、今しかできない実習を大切にしてほしい。ボランティアを積極的に受け入れているが、コロナ渦で、園外の方と関わる機会が減ってきているが、ボランティア学生から子どもとの関わりや遊び方の刺激を受けられるので、園としても嬉しい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・本校の教育方針やカリキュラム、実習等の具体的な学習内容の浸透を図る。
- ・新型コロナウイルスの影響によりオープンキャンパスへの参加数の減少があった。

②今後の改善方策

- ・オンラインオープンキャンパスの案内の強化と内容の充実を図る。
- ・保護者へのオープンキャンパス案内文書発送や保護者説明会を強化し内容の浸透を図る。
- ・中学生イベントに積極的に参画することで保育者を目指す学生の早期サポートを行う。

③特記事項

- ・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

加藤委員：入学前は学校や先生方の雰囲気、カリキュラム、行事の内容が入学前は気になっていたが、入学後に実行委員などを実際やってみてわかったことが多かったため、入学前から詳しく魅力を伝えられると、興味が湧くと思う。保育の実演もやってみると良い。

小山田委員：進路活動中は学校の雰囲気や先生同士の関係、自分の学びたい分野があるのかというのを知りたかったが、パンフレットだけではなく、今はSNSがよく見られているため、SNSでの発信があると興味が湧くと思う。楽しみながら、学びの機会があると良い。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

・現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・多くの在校生、卒業生、入学予定者の情報を扱う学校として全教職員が自覚と緊張感をもって業務にあたることが重要である。

②今後の改善方策

・職員会議などで情報の取り扱いについて緊張感を高める喚起を行い、引き続き個人情報の取り扱いには十分に注意し、資料や情報が外部に漏れないよう徹底する。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：現場では仕事用のパソコンやUSBの管理、個人的なことにパソコンを使用していないかなどを上司が確認している。しかし、プライベートで仕事の話をする際に具体的にやり過ぎることがないように、毎月同じことを言い続けている。

大沼委員：園の事務所以外で話すことがないように注意喚起している。個人情報の持ち出しは厳禁だが、在宅の場合は、許可を出していた。また、職員同士の話の中で、子どもの話から親の話に繋がることもある為、情報漏洩が懸念される。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

- ・地域との関わりを強化し、地域や保育施設への貢献を意識した産学連携活動の推進。
- ・感染対策と両立した地域貢献活動の実施。

〈2020年度実績〉

こどもくらぶ(子育て支援活動)・・・休止

保育発表会・・・団体参加 5 園(園児、職員含め 89 名)、一般参加 32 名(保護者 16 名:お子様:16 名)

地域支援実践(1年次科目)・・・実施無(継続的なボランティア、アルバイト等以外は実施なし)

②今後の改善方策

- ・地域貢献を意識した産学連携の活動の強化

〈2021年度計画〉

- ・学校近隣の地域の子ども・保護者に対して学校を無料開放し、8階スタジオや保育室で遊び場を提供する。
- ・1～2か月に一度、地域の親子連れに向けたイベントを開催
- ・地域の企業イベント(JR 東日本・まみたん等)や、保育施設のイベントへの参加
- ・生徒への感染対策やモラル教育を強化し、情勢を見ながら生徒が主体的に社会貢献を意識し、強みを見付ける活動が出来るように促していく。

③特記事項

・特になし

④学校関係者評価委員会コメント

平山委員：イベントをし続けることが大事。生徒もコロナウィルス感染拡大に対して学び直し、親子連れが来た時の対応やイベ

ント後の除染をどうするかまで考えさせることも大切である。イベントの実施は生徒の成長に繋がり、感染対策や除染作業について学ぶことも有効である。イベントを実施すべき。感染防止対策について、現場に送り出す前に実践することが大切である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価の結果から課題として、自ら考え、行動する人材を育むことは継続的に求められる。指示に対しては対応できるが、何のために行っているのかを考えることが出来ていない傾向があるので授業や就職指導で繰り返し伝えることが必要。また、引き続き、卒業生の支援に関して、園への訪問・園との繋がりが重要となる。2019・2020 年度卒業生を同窓・研修として集め、社会貢献の高い職業であることや、個人の悩みを聞き、また明日からも頑張ろうという決起を込め再度送り出す予定である。在校生への就職支援においては、産学連携活動などイベントをし続けることが大事であり、生徒にも感染拡大に対して学び直し、考えさせることが大切である。イベントの実施は生徒の成長に繋がる為、感染対策や除染作業を徹底し現場実践することが大切である。

今後もコロナ禍の為、現場実践を行いきにくい現状はあるが、より良い人材育成や社会貢献が出来るよう現場を意識した教育を取り組んでいくことが重要である。